

## 囲いやま森の会 観察記録

2008.6.28 野口 功

日 時： 2008.6.17 (土) 10 時～ 天気： 曇り

記録・写真： 山田幸子

「鳥の行動で無駄なものは 何ひとつありませんよ、必ず意味があります。遊びの行動をするのは、カラスぐらいです。」と、知人が教えてくれました。(そうか、鳥は生きるために、何らかの意味があることだけするのか) 一生懸命餌をとり、ヒナに与えているカイツブリの親鳥、ヒナは親の動きをじーっとみて、生きる力をつけていきます。それに引き換え、そんな鳥たちを 30 分も 40 分も眺めている私って何なのだろう。(心の安らぎを得るための行動は、人間には無駄ではないよね) と無理やり納得しながら、さらに観察を続ける自分でした。

今鳥たちは、子育ての時期です。親鳥は、餌とりに一生懸命です。これから、かわいいヒナたちが巣立つ姿を、見かける機会が増えます。その時は、応援してあげてください。

### <観察記録>

- 1)クリの雄花が目立っています。長さ 10～15 cm位でやや上向きにつきます。雌花は緑色であり目立ちません。この時期急に、存在感を表してきます。「あれっ、ここにもあったの?」と思うのは、私だけでしょうか? 縄文時代から、実を食用にしていたとのこと。秋が楽しみです。美味しいですよ。
- 2)ヒヨドリは、灰色の地味な姿です。甲高い鳴き声はよく聞こえてきます。「ピーヨ、ピーヨ」という声と灰色の姿に、「ああ、あの鳥ね」と、思われる人も多いことでしょう。スズメやムクドリは地面を歩きますが、ヒヨドリは、歩くのが苦手ようです。地面に降りている姿は、あまり見かけません。ホバリング(空中停止)をして、花の蜜をのんでいる姿は、良く見かけます。波をうつように飛びます。
- 3)オオヒラタシデムシの、黒い姿は良く見かけます。「死出虫」と書きますが、死体にたかるところから、この名前がきているようです。あまり好かれない容姿かもしれませんが、いなかったら大変です。野山が生き物の死体で、あふれてしまうかもしれません。
- 4)カナムグラは、葉を触った時のザラザラした痛みが蘇ってくる植物です。今年も囲いやまで元気いっぱい、他の木や草にからみつきました。秋には雄花・雌花を付けますが、記憶に残っていないくらい地味です。このザラザラした葉に痕を残すとは、どんな虫なのでしょう。
- 5)クサグモは、木々の間に網をはっています。雨あがりに網を見ると、水滴がついてとても綺麗です。クサグモの姿を写そうと、そっとカメラを近づけるのですが、すぐにトンネルの様な隠れ家に、飛び込んでしまいます。ゆっくり観察したいのですが、難しいです。幼体は赤い体をしています。
- 6)ミズキの切り株にベッコウタケが生えてきました。継続して観察していきたいと思います。

### <開花植物>

- 木本 クリ・アカメガシワ・ムラサキシキブ・ネズミモチなど
- 草本 ノゲシ・オニタビラコ・ハルジオン・ハキダメギク・オオイヌノフグリ・ユキノシタ・ハコベ 2 種・ギシギシ・オオバコ・コヒルガオ・ドクダミ・ツユクサ・スズメノテッポウ・スズメノカタビラなど
- 鳥 コジュケイ・シジュウカラ・ヒヨドリ・ツバメ・ハシブトガラスなど
- 昆虫 クロウリハムシ・ナミテントウ・キンバエの仲間・ヤブキリの仲間・ザトウムシ・アワフキ(シロオビアワフキの幼虫)・ダンゴムシ・ゴミムシ・ハサミムシ・センチコガネ・スズメバチ・モンシロチョウ・スジグロシロチョウ・ヒカゲチョウなど
- キノコ カワリハツ・ヒビワレシロハツ・イタチタケ・カワラタケ・ベッコウタケ・オオゴムタケ・スジウチワタケ・スエヒロタケなど
- クモ クサグモ・ジョロウグモ・コシロカネグモ・オナガグモなど

# 園 いやまの森

2008.6.17(土) 曇り 山田幸子

夏至 6月21日：雨の似合う花が咲く季節です。太陽は最も北に寄り、昼間の時間が1年で一番長い。梅雨の真っ最中だから、日照時間は冬よりも短く、夜が一番短いですね。



森の中



生きづく緑



ベッコウタケ



ヒルガオ



ツユクサ



クワの花



カナムグラの食跡



モンシロチョウ



オオヒラタシテムシ



サシガメの仲間



コメツキムシ



センチコガネ



ダンゴムシ



クサグモ



クサグモの幼体